

情報リテラシー

フェイクニュース判定・AI画像の見分け方・情報検証 | 50分

対象: 中学1～3年生 | 授業時間: 50分(1コマ)

準備物: スライド(プロジェクター)、ワークシート(P.4)、生徒用端末(あれば)

ねらい: 情報の真偽を見極める力を身につけ、デマの拡散を防ぐ判断力を育てる

このテーマで扱う3つの柱

1. フェイクニュース判定 —— ウソを見抜く目を養う

なぜフェイクニュースは広がるのか? 感情を揺さぶる情報ほど拡散されやすい仕組みを理解

2. AI生成コンテンツの見分け方 —— 「見た目」は信用できない時代

AI画像・AI動画・AI音声のリアルさと限界。ディープフェイクの存在を知り、懐疑的に見る力

3. 情報検証(ファクトチェック) —— 自分で確かめる技術

情報源の確認、複数ソースの比較、ファクトチェックサイトの活用。「シェアする前に調べる」習慣

授業の流れ(50分)

0～5分	導入	「この写真、本物? AI?」クイズでつかみ
5～15分	展開1	フェイクニュースの仕組みと見分けるポイント
15～25分	展開2	AI生成コンテンツの特徴と見分け方
25～40分	展開3	情報検証ワーク —— 実際にファクトチェックしてみよう
40～50分	まとめ	ふりかえり・ワークシート記入

準備物チェックリスト

- プロジェクター + PC(フェイク画像・AI画像の提示に使用)
- ワークシート(P.4を人数分コピー)
- この指導案資料(印刷して手元に)
- 生徒用端末(ファクトチェック実習で使用・なくても可)

指導のコツ

生成AIの進化で「見れば分かる」時代は終わりました。

「疑う→調べる→判断する」プロセスを体験させることが最大の目標です。

指導のポイント

■ 導入(5分) 「この写真、本物? AI?」クイズ

AI生成画像と本物の写真を数枚見せて「どっちが本物?」をクイズ形式で出題。
正解率が低いことで「見た目だけでは判断できない」ことを体感させる。

例: 実在しない人物の顔写真(ThisPersonDoesNotExist等で生成)と本物の写真を比較
→「この人、実は存在しません。AIが作った顔です」と種明かし

板書ガイド

板書: 「見た目だけでは、もう信じられない時代」

■ 展開1(10分) フェイクニュースの仕組みと見分け方

【なぜフェイクニュースは広がるのか?】

- ・人間は「驚き」「怒り」「不安」を感じる情報ほどシェアしやすい
- ・アルゴリズムが「注目を集める情報」を優先的に表示する
- ・「みんなが言っている」=正しい、という思い込み(バンドワゴン効果)

フェイクニュースを見抜く5つのチェックポイント

- (1) 情報源はどこ? → 発信元のサイト・アカウントは信頼できるか
- (2) 日付はいつ? → 古い情報が「最新ニュース」として拡散されていないか
- (3) 他のメディアも報じている? → 1つのサイトだけなら要注意
- (4) 見出しと本文は一致している? → 見出しだけで判断していないか
- (5) 自分の感情が動いている? → 怒り・恐怖を感じたら一度冷静に

板書ガイド

板書: 見抜く5つ → (1)情報源 (2)日付 (3)他メディア (4)見出しvs本文 (5)自分の感情

■ 展開2(10分) AI生成コンテンツの特徴と見分け方

【AI生成コンテンツの種類と現状】

- ・AI画像 (Midjourney, DALL-E, Stable Diffusion等) —— 写真と見分けがつかないレベル
- ・AI動画 (Sora等) —— 実在しない場面を動画として生成可能に
- ・AI音声 (ボイスクローン) —— 数秒の録音から本人そっくりの声を生成
- ・ディープフェイク —— 有名人の顔を他人の動画に合成する技術

AI画像を疑うヒント

- ・指や手の不自然さ(本数・形状)
- ・背景の文字が意味不明
- ・左右非対称なアクセサリ
- ・肌のテクスチャが均一すぎる
- ・影の方向が不自然

☑ ただし限界がある

- ・最新AIでは指の問題も改善済み
- ・動画でも破綻が減っている
- ・「見た目で判断」はもう限界
- ・→ 情報源とコンテキストで判断する
- ・→ ファクトチェックツールを使う

板書ガイド

板書: AI画像の見分け → 手・文字・影をチェック。ただし限界あり → 情報源で判断!

■ 展開3(15分) 情報検証ワーク

P.3の事例を配布し、グループで「本当か?ウソか?」を検証する。

【ファクトチェックの手順を教える】

- STEP1: 情報源を確認(どこが発信? 公式? 個人?)
- STEP2: 他の情報源と比較(NHK、新聞社のサイトでも報じているか?)
- STEP3: ファクトチェックサイトで確認(日本FC協会、InFact等)
- STEP4: 画像検証(Google画像検索で元画像を探す)

■ まとめ(10分) ふりかえり・ワークシート記入

「シェアする前に調べる」を合言葉に。ワークシート(P.4)を記入。
「だまされることは恥ずかしくない。だまされた情報を広げることが問題」と締める。

指導に役立つ用語解説（10語）

フェイクニュース

事実ではない情報を、あたかも本当のニュースのように広める行為。

ディープフェイク

AIで人物の顔や声を合成し、本人が言っていない発言をさせる技術。

ファクトチェック

情報の真偽を検証する作業。専門機関やサイトが存在する。

情報源（ソース）

情報の出どころ。一次情報（直接取材）と二次情報（伝聞）がある。

バイアス

先入観や偏見。自分が信じたい情報だけ受け入れる「確認バイアス」が特に危険。

エコーチェンバー

同じ意見の人ばかりのSNS空間。偏った情報だけが強化される現象。

フィルターバブル

アルゴリズムが自分好みの情報だけ表示し、異なる視点に触れなくなる状態。

生成AI

テキスト・画像・動画・音声を自動で作り出すAI技術の総称。

画像検索（逆検索）

画像から元の出典を探す検索方法。Google画像検索やTinEyeが有名。

メディアリテラシー

メディアの情報を批判的に読み解き、適切に活用する能力のこと。

検証事例カード（グループワーク配布用）

事例A: 災害時のデマ

「〇〇地区のダムが決壊した」という投稿がSNSで拡散。写真付きだったが、実は3年前の海外の洪水写真だった。パニックで避難渋滞が発生。

事例B: AI生成の有名人発言

有名政治家が「〇〇を禁止する」と発言したとされる動画がSNSで拡散。実はAIで生成されたディープフェイク動画で、本人は一切発言していなかった。

事例C: 健康デマ「〇〇を食べると…」

「〇〇を毎日食べるとガンが治る」という記事がSNSで大量シェア。情報源は個人ブログのみ。医学的根拠なし。信じた人が治療を中断するケースも。

事例D: 切り取り報道

ある人物の発言を前後の文脈なく切り取った動画が拡散。「ひどい発言だ」と炎上したが、全文を読むと真逆の主張だった。見出しと本文が一致しない典型例。

よくある質問（生徒から出やすい質問）

Q. ニュースサイトなら信用していい？

→ 大手メディアでも間違いはある。複数のメディアが同じことを報じているか確認しよう。

Q. AI画像は100%見分けられないの？

→ 技術は日々進歩しており、見た目だけの判別は困難に。「情報源」で判断する習慣が大事。

Q. 自分がフェイクニュースを拡散してしまったら？

→ 気づいた時点で訂正・削除する。「間違いでした」と正直に伝えるのが最善の対応。

情報リテラシー ワークシート

～シェアする前に、立ち止まって考えよう～

名前: _____

年 組 番 _____

日付: 月 日 _____

Q1. フェイクニュースを見抜く5つのチェックポイントを書こう

(1) _____

(2) _____

(3) _____

(4) _____

(5) _____

Q2. AI画像を疑うとき、どこをチェックする?(3つ以上)

Q3. 検証事例を分析しよう(事例 _____ を分析)

この情報はなぜ広まったか?(人の心理・アルゴリズム)

どうすれば真偽を確認できたか?(検証手順)

もし自分がこの情報を見たら、どう行動すべきだったか?

Q4. ファクトチェック4ステップを書こう

STEP1: _____

STEP2: _____

STEP3: _____

STEP4: _____

わたしの情報リテラシー宣言

だまされない・広めないために、自分が心がけること:
